



KSKQ 萌風香 2022 年度 冬号

誰もが生き活きと
自分らしく暮らせる
心豊かな社会を
創造します。

社会福祉法人萌 広報紙 NO.79 2023.1.16 編集人 社会福祉法人萌 定価 150 円
〒630-0256 奈良県生駒市本町 7-14 ブルームビル2階 ひだまり内 TEL 0743-85-4196

令和5年 2023年 謹賀新年 特別対談 「穏やかで平和な一年になりますように」

吉川郁子理事長(以降吉川)、山本桂子福祉統括部長(以降山本)、出口裕生総務部長(以降出口)の3者対談の様子をお伝えします。

【吉川】 あけましておめでとうございます。去年はコロナウィルスに一喜一憂した一昨年までと違って、各地でのイベントが開催されて参加もできるようになり、少しずつですが日常も気力も戻ってきたように感じます。いかがでしたか？



【山本】 そうですね。施設の閉所や支援の変更などの対応に追われた前半。感染対策をしながら日常の活動を取り戻していくことに取り組んだ後半。その中で利用者との日常が変わらず続いていることにホッとできる一年でしたね。



【出口】 自分はもう、何をしていたか思い出せないくらい色々あった1年でした。人事、労務、財務、事業や助成金などの書類作成、そしてコロナ対応……。理事長の無茶ぶりにも(笑)



【吉川】 大変お疲れさまでした(笑)

【出口】 3人で「この事業を活用すれば」、「こんな活動できたら」と、これからの話しをする機会が増えました。

【山本】 色々と話しをしている中で、心身ともに疲れが溜まっていたことに改めて気づかされたり(汗)

【出口】 やっぱり顔を見て話すことって大事ですよ。温度というか肌で感じるものがある。3年ぶりに職員全体会が対面で開催できました。

【吉川】 社会全体を見渡すと「戦争」が人ごとではなくなり、平和や安全への信頼が揺らぐ一年でもありました。障害者権利条約の国連勧告では、これまでの仕事や人権感覚は間違っていなかったのか振り返るきっかけになりました。

【山本】 「できることをやっていこう」と進んできたことと自分たちの業務を点検する機会になりました。地域で安心して暮らせるように、地域移行やピアサポートなどの取り組みをもっと進めていかなければならないと。また、コロナ禍の中で孤立しないように、つながり続けることを意識してきましたが、地域社会に広く目を向け、自分たちの実践を広げていきたいと思っています。今年は延期していた20周年事業も開催するので、自分なりに今までの20年を総括したいと思っています。

【出口】 自分はゆっくりしたいなあというのは本音としてはありますが、これからの萌を構築する基礎の部分で私のできること、総務部としてできることをしていこうと考えています。今年も皆さんといっぱい話したいと思います(笑)

【吉川】 今年はこのコロナ禍で備わった知恵や力も活かして、止まっていた活動や事業をいち早く再開させて日常に戻していきます。穏やかで平和な一年になりますように。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

生 駒 エ リ ア

生活支援センターコスモールいこま 0743-73-7000 地域活動支援センターコスモールいこま 0743-73-0900
ひだまり 0743-85-4196 コミュニティスペースはなな 0743-73-1050
グループホーム楽都 0743-73-0141

つながり続ける大切さ

私たちは、イベントや自治会活動などを通して、地域の皆さんと日々つながることで、精神障害について知ってもらうことを大切にしています。

新型コロナウイルスの影響により中止していた、奈良県指定無形民俗文化財の『往馬大社火祭り』が3年ぶりに開催され、神輿(みこし)担ぎに今回も自治会の一員として参加しました。

往馬大社火祭りの参加は、ひだまりが参加していた自治会活動をきっかけに「男手が足りないから出てくれない？」の一言から始まり、今回で6回目の参加となりました。

その他にも、2017年からは本町自治会からの依頼を受け、生駒市広報「いこまち」の配布の準備や自治会回覧板仕分け・配布を担当しています。

その回覧板の中にあった「秋の大祭で提灯を出しませんか」というのを見て、今回初めて提灯を申込みました。秋の大祭だけでなく、お正月にも点灯してもらえました。

それぞれの事業所が自治会活動には積極的に参加し、そして自治会からもつながりを大切にもらっています。これからも変わらず、地域の皆さんから頼られる活動を続けていきます。



今年から地域の一員として提灯デビュー！

まずは知るところから

「認知症サポーター養成講座」受講

生駒エリアの中期計画の取り組みの1つに、家族の高齢化による環境の変化や、自分が高齢化していくことへの不安について、解決すべき課題に対して学習していくことを掲げています。

実際に、「親が認知症になったらどうしよう」という相談を受けることもあります。認知症に関する見分け方や関わり方がよくわからないため、まずは職員で学ぶことになりました。

生駒市梅寿荘地域包括支援センターの認知症地域支援推進員の笹本奏さん、介護支援専門員の大窪亜希子さんから「認知症を正しく理解する」をテーマに受講しました。

講義では、認知症の行動にはそれぞれ意味があるため、驚かせない、急がせない、自尊心を傷つけないようにし、ゆっくり接することの大切さを学びました。実際に利用者からの相談もあることから、次は利用者と一緒に学ぶ予定です。



「物忘れ相談プログラム」
認知症スクリーニング機器

地域移行・地域定着研修会

「病院を出て、街で暮らしたい」

2022年度は、「安心して地域で生活するために」をテーマに、当事者の体験発表と専門職によるシンポジウムを行います。

日時:2023年2月7日(火)14時から16時

場所:生駒市図書館 大会議室 A・B

参加費:無料

定員:100人(当日先着順)

お問い合わせ

地域活動支援センターコスモールいこま

電話:0743-73-0900 FAX:0743-73-0907

郡山エリア

生活支援センターふらっと 0743-54-8112 地域活動支援センターふらっと 0743-54-3977
ふれあい工房 0743-54-6701 彩食キッチンBon 0743-58-5572
グループホームもえぎ館 0743-85-4112

柳町商店街や学童保育所からお借りした輪投げやだるま落としが大好評！

子どもたちの楽しそうな声で賑わいました。

みんなと進むこおりやま ～3年ぶりの「はーとふる市」～



初めての場所・初めてのお客様も！

郡山エリアが第4期中期計画で取り組む「地域啓発・地域貢献」の活動。第18回は「はーとふる市（主催：ハートフルこおりやま-精神障害者の社会参加をすすめる会-）」に参加しました。

3年ぶりの同イベントは、初めて地元公民館で実施。来場者は近隣の家族連れを中心に約200人。和やかな雰囲気の日となりました。

【ステージ】 ボランティア団体「マロンフレンズ」による多彩でユニークな音楽。地元公民館サークル「グラン・グラン」による綺麗なキーボードのハーモニー。当事者ステージは熱心なファンが見守る中、笑いあり、ツッコミありの素敵な時間となりました。

「来年はステージに出るぞ」そんな声も聞こえてきます。



歌声が会場いっぱい♪

【キッズコーナー】 地元の小学校や幼稚園、福祉事業所から子どもたちがたくさん遊びにきてくれました。

【健康コーナー】 一人ひとりの悩みに寄り添うはーとふる市でも重要なブース。「こころの訪問看護ステーションひなた」「薬局メールボックス」にご協力いただき、ご家族から薬の相談、血管年齢の機器測定などを行いました。

相談者は絶え間なく、長い時間をかけた相談もありました。

【販売コーナー】 障害福祉4団体（宴満・ギブアンドテイク・こすもす・はるかぜの皆さん）と出店しました。コロナ禍で減った販売の機会となり、いつもと違う利用者の一面を見られました。

「ステージを楽しみながら販売できたのがとても良かった」「久しぶりにイベントに出られて楽しかった」と出店団体から感想をいただきました。

改めて福祉の祭りの醍醐味を感じる機会になりました。

【もったいないフェア】 初めての企画。使わないものを必要な人へ。会場は提供されたもので溢れました。開場前から待ってくれる人、持ちきれないくらい持ち帰る人もいました。

物資を提供くださった地域のみなさま、ならコープ・ハートフルコープならのみなさまご協力ありがとうございました！



机に乗らない物資も！

2000年から活動が続ける市民団体「ハートフルこおりやま」と一緒に障害のあるなしに関わらず、誰もが住みやすい街づくりを進めていきます。

西 和 エ リ ア

生活支援センターぼると・ベル 0745-43-5541 地域活動支援センターまーぶる 0745-75-6545

らそら 0745-70-1577 グループホーム彩友館 0745-43-9333

HAPPY HALLOWEEN!!!

～ OPEN & ACTIVE ～

「トリックオアトリートー」「ハッピーハロウィン」と、元気な子供たちの声で溢れる10月31日。夕方からまーぶるを開放し、ご近所さんたちと一緒にハロウィンを楽しみました。

当日は仮装したお子さんもたくさん来てくれ、メンバーとおそろいの衣装だった子からは「同じ吸血鬼やーん!」と思わず笑みが見られました。

また、スクリーン姿に泣いてしまった子に「実はお兄さんだよ～」と正体を明かす場面もありました。

お客さんからは「ここはどんな場所ですか?」「家ではこんなに飾り付けできないから、ありがたいです」とこちらも嬉しくなるようなメッセージを頂きました。



とってもにぎわってまーす!!

西和エリア(以下、当エリア)が所属する昭和町自治会の子ども会では、例年ハロウィンの時期に親子で仮装し、ご近所を回るイベントをしていました。新型コロナウイルスの流行でここ3年間は中止されていましたが、「コロナ禍であっても地域に開かれた活動をしていきたい」とまーぶるが主催で開催することになりました。

イベントを企画した背景にあるのは、当エリアの「歴史と原点」です。

当エリアでは、過去に施設コンフリクト(反対運動)を経験した歴史があります。斑鳩町に移転した当初、斑鳩町長をはじめ、近隣の皆さまは快く迎えてくださいました。

そして、法人設立10周年を迎え、「近隣の皆さんに感謝(恩返し)を伝えよう」「私たちの元気な姿を知ってもらおう」という思いから、当エリアでは、第1回西和ふれあい祭り(2010年)の開催に至ります。イベントを通じて、自然と近隣の皆さんが施設へ立ち寄ってもらうことができました。

その後、現在の建物に引っ越しをする前に、施設の意味や私たちが大切にしたいことについて、何度も話し合い、「斑鳩町からは離れたくない」「まちの人が立ち寄りやすい施設にしたい」という思いから「OPEN&ACTIVE～地域に開かれ活動していく～」の合言葉ができました。

施設コンフリクトや新型コロナウイルスを経験した今、もう一度原点に戻り、私たちの元気な姿・ユーモアあるまーぶるをこれからも発信していきたいと思います。



仮装したみんなでハッピーハロウィン!

『つながり』を目指し

～平群町社会福祉協議会で講演～

10月22日(土)平群町社会福祉協議会主催の研修会で「精神障害をもつ方への対応方法や心構え」というテーマで講演をしてきました。当日は、デイサービス職員・ケアマネ・ヘルパー・窓口の職員など約30人近くの参加がありました。

今後もこのような機会を大切に活動していきたいです。



久しぶりの対面での研修でした!

高田 エ リ ア

生活支援センターなっつ	0745-23-7214	地域活動支援センターなっつ	0745-23-8105
マインドホーム高田	0745-23-8072	おかわり	0745-23-5625
えいぶる	0745-52-5752	あっとほーむ香芝	0745-44-8023

B型事業所の魅力を伝える体験会

あっとほーむ香芝、えいぶる、おかわりは、中和地区3市1町障害者自立支援協議会就労支援部会が開催した福祉事業所体験会に参加しました。

障害のある方が自分で事業所を選択し、判断できる情報取得の機会をつくることを目的に開催され、各市町で1回ずつ順次行う予定です。



当日は想定よりも多くの人でにぎわいました

第1回は11月に香芝市総合福祉センターでの開催となりました。当日は、当事者や家族が約35人、支援者を合わせると来場者で会場が埋まるほどの盛況ぶりで近隣にある就労継続支援B型（生産活動などの就労訓練を行うことができる福祉サービス）などの事業所8団体がそれぞれ体験ブースを設けました。

高田エリアからは実際に事業所で行っている仕事を持ち寄り、ブースを訪れてくれた人に説明しながら体験してもらいました。

仕事中、話が盛り上がってつい手が止まってしまうことや、ゆっくり休んで過ごすだけの利用でも良いことなど、話だけではなかなかわからない普段の様子を、写真や動画で見ってもらうことで、施設の中の様子や高田エリアのB型事業所の魅力を伝えられる良い機会となりました。



見学者を待つ事業所スタッフたち

体験会に参加者からは「1日で多くの事業所を回れて見学できるのが良かった」「見学に行こうと思ったら、電話しないといけないし、場所が離れていたりするので、こんな機会があって嬉しい」といった声も聞かれました。

福祉サービスの利用に興味がある人や日中の活動場所を探している人に向けて高田エリアのB型事業所の魅力をアピールすることができました。

コロナでも地域とのつながり大切に ～3年ぶりイベント参加～



福岡憲宏香芝市長が立ち寄るあっとほーむ香芝の物販

あっとほーむ香芝では約3年ぶりに対面式のイベントに参加しました。

今回で15回目となる香芝市ボランティアフェスティバル、「住民みんながボランティア」というテーマに市内のボランティア団体が演芸舞台発表や活動紹介、模擬店やフリーマーケット、パネル展示を催しました。

あっとほーむ香芝は模擬店で参加。立ち寄ってくれたお客さんへの接客にドキドキしたり、日頃お付き合いのある人たちに久しぶりに会って嬉しく思ったりと対面式のイベントを満喫しました。

会場となった香芝市総合福祉センターは、当日配布されたくじ引きの引換券付きパンフレットの約600枚が全てなくなるほど盛況でした。

久しぶりにイベントに参加して地域を盛り上げるために協力できたことに嬉しく思いました。

地域と繋がり続け、地域と一緒に盛り上げていく姿勢をこれからも変わらず大切にしていきます。

檀 原 エ リ ア

生活支援センターぴあぼ〜と	0744-24-2020	地域活動支援センターぴあぼ〜と	0744-24-2070
生活支援センターいろは	0744-32-7753	ひなた舎	0744-32-7745
P i t 八木	0744-21-5666	グループホーム南	0744-24-2050

かしはら福祉まつり開催！

全国的に冷たい雨が降った2022年12月17日(土)「かしはら福祉まつり」を奈良県檀原文化会館前広場で開催しました。

あいにくの天候にも関わらず、子どもからお年寄りまで300人ほどの来場がありました。



雨の中にぎわう出店ブース

檀原エリアではこれまでも精神保健福祉の普及啓発を目的にした講演会とイベントを開催してきました。新型コロナウイルス感染症の影響でこの2年間はメンタルヘルスに関する講演会のみを行い、広場イベントは開催を見合わせていました。

今年から法人主催になったのを機に、「精神保健福祉はもちろん、もっと檀原地域での福祉を盛り立てていきたい」という思いから名称を変更し、コロナ禍でも楽しめるイベントを目指し、気持ち新たに準備を進めてきました。



学生ボランティアと一緒に準備中！

コロナ禍にもかかわらず当日は檀原地域で活動する医療・福祉関連の7団体、畝傍高校ボランティア研究部、御所実業高校機械工学科の皆さんが、模擬店・キッズスペースで大活躍！ゆるキャラやミニドクターイエロー、手作りクリスマスツリーも会場を華やかに彩りました。

来場した親子連れからは「チラシを見てきました。コロナ禍でお祭りもなく、わたがしづくりを子どもが生で見たのは初めてです」といった声がありました。

また、ボランティアの高校生からも「お子さんの笑顔がうれしかった」、協力団体からも「久しぶりのイベント販売でした」との感想がありました。会場にいる皆さんのマスク越しの笑顔があふれるイベントとなりました。

豆崎所長が保護観察所長から表彰 ～更生保護事業への貢献を評価～



表彰の推薦者で保護司の服部誠さん(右)

檀原文化会館で10月19日(水)に開催された奈良県更生保護事業関係者顕彰式典で、生活支援センターいろはの豆崎英次所長が、奈良県保護観察所長から表彰を受けました。

保護観察所は、罪や非行を犯して保護観察の対象になった人について保護観察を行う法務省の機関です。表彰は日頃の更生保護事業への貢献に対するものです。

私たちの実践は、時に更生保護事業の関係者と連携することがあります。豆崎所長も田原本町の保護司と共同で、日頃から支援にあたってきました。立場や所属の垣根を越えて、連携し支援にあたるのが、地域福祉では重要なことです。

今後も『誰もが生き活きと自分らしく暮らせる心豊かな』まちづくりのために、地元の関係者と協力し地道に支援を展開していきます。

3 年ぶりに開催！ ～2022 年度 冬の職員全体会～

年2回、法人の全体像を把握し、職員としての
意思統一を図ることを目的とした職員全体会。

2022年12月10日(土)新型コロナウイルスの
影響により3年ぶりに対面方式で開催しました。

「支援の手を止めない～コロナ禍を走り続けた
職員の实像～」というテーマで天理大学人間学部
深谷弘和先生(当法人理事)をコーディネーター
に迎え、シンポジウムを行いました。

(所属・役職は当時)

■ 出口裕生 (総務部長・感染対策本部)

事業を止めないことと、職員と
利用者の安心・安全を守るため
に、正解がない中で法人の体制
を整え続けた。



■ 島山孝夫 (高田エリア部長・地域活動支援センターなっつ所長)

市から閉所要請に交渉を続け、
場所の移動、簡易設備の導入な
どの工夫をしながら1日も閉所せ
ずに事業継続することができた。



■ 河合淳子 (Pit ハ木所長)

出勤できなかった時は、利用者
に不安感や、コロナになっても罪
悪感を生じさせないために、みん
なへ手紙を書いた。



■ 石田昌世 (ホームヘルプステーションさくらんぼ主任)

日々の生活は止まらない。衛生
物資、人員は不足し代替支援な
どの対応に奔走していた。職員の
メンタルヘルスに気を遣って対応
していた。



深谷先生から「感染への不安」から「差別」が
生まれるという構図は、精神障
害に対する差別と同じようなも
のである。との指摘があり、次
の3点に論点整理した上で、意
見交換を行いました。



コロナ禍で感じた「使命感とプレッシャー」。
職員として気付いたことは何か？

- ・施設内でコロナ前からの方針であった「穏やかな施設」を守るために、職員への協力依頼だけではなく、利用者にも話しをした。
- ・(コロナ前から)実施していたことを、なるべく変えないように、どう工夫ができるかを考えていた。

働きやすい職場とは、どんな職場なのか。
また、どんな工夫をしてきたのか？

- ・コロナ禍になり、長期的に休まざるを得ない場合、職員に罪悪感を抱かせないように、なるべく「大丈夫!!任せて!」と声をかけた。
- ・非常時には、日頃からの情報共有が大切であると思った。
- ・現場からの声を、反映できるよう会議などで検討し、実施した。

行政機関と私たち。(非常時の)コントロール
下で私たちは「ケア」をどう担っていくか。

- ・お互いわからない時はある。相手の立場になって考え、理解していくことが必要。
- ・日常生活は障害のある、なし関係ない。そこに差が生まれないようにしていくのが私たちの役割。

「PSW として、変えてはいけなものと変えなく
てはいけなものを見極める力が大事」

「今回のようにしっかりとやってきたことを記録・
文字にしておくこと」

「現場で起きていた苦労をあらためて感じるこ
とができた。想像を超えたものがあった」
と職員全体会に参加していた評議員・理事・監事
の方からの講評。

「支援の手を止めない」今回共有された私たち
の経験をこれからの実践に活かしていくこと。それ
が理念の実現につながっていきます。

萌風香2022年度秋号利用者投稿コーナーテーマ「コ
ロナと私」で一部誤りがございました。

「COVID-19 閉鎖した密 解き放て 岸 愛子」

「マスクして ひげを剃る手間 省けてる mimizuku」

が正しい作品となります。

訂正し、お詫び申し上げます。

(編集部)

さくらんぼ便り

ホームヘルプステーションさくらんぼ
0743-54-0800

ライク通信

なら西和障害者就業・生活支援センターライク
0743-85-7702

コロナ禍に思うこと

さくらんぼは、生活を支える役割を担っていることから、安定して定期的に支援を提供できるように計画しています。

コロナの影響を受けて調整が難航し、利用者の方々にご協力を頂くことが増えています。どうか支援をつないでいく中で、「ヘルパーさんも大変やね」「来てくれて助かるわ」とご理解を頂き、利用者の方と「ともに乗り越える」連帯感が生まれた気がしました。

また、この状況で私達に何ができるのかを考える場面が何度もあり、支援の原点に立ち返れたとも感じています。

その人らしい生活のために、これからも一緒に悩み、考えることを望んでもらえるような私達でありたいです。

障害者雇用は「量」から「質」へ

近年の障害者雇用は着実に進展しており、働く障害のある方の人数は年々増加しています。その一方で、厚生労働省は「障害者雇用の質の向上」が今後の課題であるとし、障害者雇用に係る関連法案の改正ではあらたな施策が盛り込まれました。

例えば、これまで障害者雇用率の算定対象になっていなかった週労働時間が10時間以上20時間未満の方の一部が算定対象になることや、ご本人の希望や適性に応じた働き方ができるように支援する「就労選択支援」の創設などが挙げられます。

ライクでは変化する制度にも対応しながら、障害のある方ご本人の意思や希望を大切し、障害者雇用の質の向上に寄与できるよう支援を行っていきます。



★萌風香の購読★

萌風香は年4回発行です。皆様のお手元に届いた後、萌のサービス利用者以外の方で「引越して住所が変わった(住所変更)」「次からは送ってもらわなくても結構です(購読中止)」という場合、お手数ですが必ず萌風香編集部ひだまり(0743-85-4196)までご一報くださいますようお願いいたします。

▽萌 後援会からのご案内

萌後援会は「社会福祉法人萌」の活動を支援していただける皆様を募集しております。

主な目的は法人事業の支援や寄付を行なっています。

会費の納入及び寄付の受付口座は郵便振替 社会福祉法人萌後援会
00920-4-221824

後援会事務局(萌総務部内)
0743-54-0821(大東)

▽ハートフルこおりやま
精神障害者の社会参加をすすめる会

「障がいのあるなしに関わらず、誰もが住みやすい街づくり」をすすめる当会では、会の趣旨に賛同頂き、活動に協力して下さる会員さん・ボランティアさんを大募集しています!!年会費は1口 500 円(2 口からお願いします)です。

連絡先:会事務局 ふらっと内
0743-54-3977(帯田)

▽ひだまりクローバー
生駒精神障がい者後援会

第36回 こころの市民講座
3月11日(土)13時受付:13時半~
生駒市コミュニティセンター4階にて
SOSが出せない?! ~援助希求~
いのちの電話相談員、臨床心理士
精神保健福祉士によるシンポジウム。
先着順:40名 参加費:無料
連絡先:コミュニティスペースはなな内
0743-73-1050(佐藤)

▽地域家族会の情報 新型コロナウイルスの影響で、各例会の開催が中止・延期など変更されています。
詳しくは、下記の各団体・お問い合わせ先にご確認ください。

詳細は まほろば会(NPO 奈良県精神障害者家族会連合会)

TEL:090-9213-2731 FAX:0742-51-5506 <https://nara-mahorobakai.org/>

名称	月例会	時間	場所	問い合わせ先	電話番号
さくら会 (大和郡山市周辺)	第3日曜日	13:30~	三の丸会館	会長関野	0743-54-6375
ひだまり会 (生駒市周辺)	第3土曜日	13:30~	市民活動推進センター ららポート	会長上村京子	0743-78-0885
西和家族会 (西和7町周辺)	第4土曜日	13:30~	王寺町やわらぎ会館	西村	0745-74-6203
すみれ会 (大和高田市周辺)	第3日曜日	13:30~	大和高田市中央公民館	三島	090-9889-7984
のぞみ会 (橿原市周辺)	第2日曜日	13:30~	県心身障害者 福祉センター	ぴあぼ〜と	0744-24-2020